

市民が行う防災プログラムをサポートします！

対象者

日田市内の自治会や自主防災組織、育友会など、地域住民が主体となって防災に取り組む団体とします。

実施内容

団体の要望に合わせた防災プログラムをサポートします。ページ内の防災プログラムを参考に、プログラムにないものでもご相談いただければ、団体の要望に合わせた取り組みを行います。複数日や複数のプログラムを実施することも可能ですので、事前にご相談ください。

費用

日田市から業務委託を受け、NPO 法人リエラが実施するもので、プログラムの実施は無料です。

※炊き出しに関わる食材など、内容によっては、対象者に一部負担をお願いする場合があります。

Q&A

Q 防災士向けに実施することはできますか？

A 防災士向けの事業は県で実施しているものがあるため、防災士のみを対象することはできません。自主防災組織を対象にしたもので、防災士が含まれる場合は問題ありません。

Q 次年度にお願いすることはできますか？

A 実施期間を年度内としているため、年度内の実施をお願いします。内容や日程の調整に時間がかかるため、遅くとも実施日の1ヶ月以上前までにはご相談ください。

申し込み

NPO 法人リエラ、または日田市防災危機管理課（0973-22-8363）までご相談ください。



NPO 法人リエラ

〒 877-0044 大分県日田市隈 2 丁目 1 - 9

電話：080-8582-5914

E-mail: info@re-area.org

Facebook <http://www.facebook.com/rearea.oita>

「まさか」から「またか」の時代
本当にまさかにならないために

募集中

よし、防災しよう



自主防災会などが行う
防災の取り組みをサポートします

日田市体験型防災プログラム事業

日田市
NPO 法人リエラ

体験型防災プログラム内容

～体験・参加型で学ぶ防災・減災～

(1) 炊き出し・非常食体験

災害時は、水道やガスといったライフラインが停止することがあり、私たちが日頃使っている食料がいつも通り調理できるとは限りません。食を通じて防災意識を高めます。

例 ハイゼックス炊飯，機材点検も兼ねた50人分の炊き出し



(2) 避難所運営訓練

避難所運営は、避難者による自主運営を基本に、行政と協働することになっています。高齢者や障がい者、LGBTQ、ペットなど多様な避難者を考慮し、地域にあった避難所を考えます。

例 避難者受け入れ体験，段ボールベット組み立て体験など



(3) まちあるき オリジナルハザードマップ作り

ハザードマップを手に、自分たちの住んでいるまちを歩きながら、安全な場所や災害時の危険箇所などを確認します。過去あった災害の情報などを入れ込み、オリジナルのハザードマップを作成し、地域の災害リスクを共有し対策を考えます。



(4) サバイバルキャンプ

ロープワーク、起こした火を使った食事調理、水消火器を使った消火体験など、アウトドア体験を通じて防災意識を高め、生きる力と防災力を養います。

例 避難所体験を含めた1泊2日の子ども防災キャンプなど



(5) 地震に向けた備え

いつ起こるか予知が難しい地震は、事前の対策が重要です。寝室やリビングなど生活空間の家具を固定したり、非常時に持ち出すものを準備したり、急な災害で困らないよう対策を考えます。

例 非常持ち出しリュックの確認，家具転倒防止講習など



(6) 避難訓練

避難のタイミングは災害の種類によって、地震は「一斉に」、水害は「別々に」と異なり、避難先も避難者によって様々です。まずは一度やってみて、地域と住民にあった対策を考えます。

例 水害想定防災ラジオを活用した避難訓練など



(7) 災害図上訓練

大きな地図をみんなで囲み、災害時の被害をイメージしながら避難経路の確認などを行います。経験したことがない災害を事前にイメージして、地域の課題の発見や事前に対策を考えます。

例 要配慮者と支援者の支え合いマップの作成など



(8) 水害復旧の講習

家の模型を使って、水害によって家が浸水したときの対処方法を学びます。被災しても、慣れ親しんだ家に住み続けられるように、床板の剥がし方や、被災したときに知っておくべき知識などを体験しながら学びます。



(9) 防災講演会

「何からすればいいかわからない」ときは、「何をすればよかったか」を聞くとヒントがあるかもしれません。先進地の事例を学び、防災意識を高め、それぞれができることを考えます。

例 災害の教訓を学ぶ（水害の時，地震の時）



(10) 水害に向けた備え

予知できる風水害は、警戒レベルに応じた行動を整理する「タイムライン」を活用します。タイムラインでは、台風の接近によって川が増水した時など、自分自身がとる防災行動を時系列で整理することで、いざというとき、慌てずに避難できるように事前に考えます。

